

関ノ池（せきのいけ）

位置図



諸元

貯水量	347.6 千m ³
満水面積	25.0 ha
受益面積	78 ha
堤高	5.4 m
堤長	365 m

関ノ池は高松市国分寺町に位置し、元は自然の沼地のようなものでしたが、慶長2年(1597年)にため池として築造されました。「那珂郡郡家村に大池、南条郡国分村に関ノ池、香西郡笠居村に苔掛池を築く。」と生駒記に記されており、生駒親正が高松城を完成させた後、西の守りとして関ノ池が築造されました。関所的な役目を果たしていたので、いつの頃からか「関ノ池」と呼ばれるようになったと伝えられています。また、関ノ池周辺の低湿地には自然の水溜りができ、ここに国分寺の供花用の蓮を植えていたので、「蓮池」とも呼ばれていた謂れがあります。

関ノ池では、昭和49年(1974年)から昭和52年(1977年)までの3年間で、団体営老朽ため池等整備事業による大改修が行われ、取水施設1ヶ所、洪水吐1ヶ所の改修、堤防の漏水及び浸食防止工事が行われました。また、平成7年(1995年)から平成12年(2000年)の間で、浚渫による水質保全事業が地域ぐるみため池再編総合整備事業により実施されました。

関ノ池の周辺は国道11号線やJR予讃線等の建設により、築造された当時から時代の流れと共に目まぐるしく変遷の歴史をたどってきました。県下において、満濃池に次ぐほどの古い歴史のある池ですが、現在は交通量の多い現代の風景に囲まれて、満々と水を湛えています。



関ノ池